

領域	専門分野 I	授業科目	基礎看護技術Ⅲ－1	単位 (授業時間/時間数)	2 (44/45)
開講年次	1年次	開講時期	通年	授業回数	22回
担当講師名	専任教員 非常勤講師		講師所属	福岡水巻看護助産学校	
特記事項	—			—	

## 授業のねらい

日常生活を健康的に営む上で欠かすことができない衣生活や、身体の清潔を維持するために必要な科学的根拠に基づいた援助技術を習得する。基礎看護技術において、安楽は重要な要素であり、すべての看護援助が対象者の安楽につながると言っても過言ではない。対象者にとって安楽かつ快適さを提供する技術について、その必要性を学び、また体験を通して技術を修得する。

食事は、生命を維持し、健康を保つ上で不可欠なものである。健康生活に置ける食事の意義を理解し、食事制限や食事を摂取する機能の障害が対象に及ぼす影響を消化・吸収のメカニズムと共に理解する。また、疾病、障害など何らかの理由で食事ができなくなった、あるいはしづらくなった対象者に、その人の通常の生活に近い状態で食事ができるように援助する役割について学ぶ。

救命救急では、患者が意識障害、呼吸停止、心停止、もしくはこれに近い状態に陥ったとき、十分に観察・アセスメントし、適切な手順に従って迅速に、呼吸および循環を補助し、救命するための技術を体得させたい。

## 授業目標

### 1. 清潔・衣生活

- 1) 皮膚の解剖生理を理解し、清潔を保つ必要性が理解できるようになる。
- 2) 看護における衣生活、清潔への援助の意義と看護師の役割を説明できるようになる。
- 3) 清潔、衣生活のそれぞれが相互に関連し合っていることが説明できるようになる。
- 4) 設定された条件下の対象の状態に応じた衣生活・清潔援助技術の方法を説明できるようになる。
- 5) 衣生活と清潔の援助技術を、留意点をふまえ、基本的な方法で実施できるようになる。
- 6) 対象の反応を捉えつつ、安全・安楽、自立を考慮しながら清潔援助が実施できるようになる。

### 2. 安楽・褥法

- 1) 体位の生理的意義を理解し、必要に応じて適切な体位をとらせる方法を修得する。
- 2) 褥法が必要な場合、安全と安楽を考慮した適切な援助について考えることができる。

### 3. 食事

- 1) 健康生活における食事の意義と看護の視点について考える。
- 2) 食事を摂取する機能と消化・吸収のメカニズムについて理解する。
- 3) 食行動の援助に関する基礎知識について理解する。
- 4) 科学的根拠に基づき対象者にあった食事援助が実施できる。
- 5) 食事を摂取する機能に障害がある方の摂食・嚥下訓練を理解する。

### 4. 救命救急

- 1) 救急対応の考え方、急変時における初期対応の流れ、トリアージについて理解できる。
- 2) 心肺蘇生法の基礎知識と一次救命処置の実際を学ぶことができる。
- 3) 出血の種類と止血の手順を学ぶことができる。
- 4) 院内急変時の対応について理解することができる。

## 授業概要

- |                   |                   |                  |
|-------------------|-------------------|------------------|
| 1. 清潔・衣生活援助       | 2. 安楽・罨法援助        |                  |
| 1) 清潔援助の基礎知識      | 1) 安楽な体位          | 2) 罨法            |
| 2) 清潔援助の実際        | (1) 安楽の定義         | (1) 罨法と生理学的メカニズム |
| ・全身清拭 ・手浴         | (2) 体位の種類と身体への影響  | ①罨法の意義           |
| ・陰部洗浄 ・足浴         | (3) 体位と生理学的要素との関係 | (2) 罨法の効果と適用     |
| ・入浴 ・口腔ケア         | ①呼吸機能への影響         | ①皮膚感覚            |
| ・洗髪 ・義歯洗浄         | ②循環血液量への影響        | ②循環器             |
| 3) 衣生活の援助         | (4) 同一体位の有害性      | ③筋・神経            |
| (1) 病衣の条件         | ①血液の循環障害          | (3) 罨法の効果        |
| (2) 身だしなみ         | ②筋の萎縮・機能低下        | ①冷罨法             |
| (3) 病衣交換          | ③患者の精神的安楽の妨げ      | ②温罨法             |
|                   | (5) 安楽な体位の保持      |                  |
| 3. 食事援助           | 4. 救命救急           |                  |
| 1) 食事の意義          | 1) 救命救急処置の基礎知識    |                  |
| 2) 食事に関するメカニズム    | (1) 救急対応の考え方      |                  |
| 3) 食事と栄養に関する基礎知識  | (2) 急変時における初期対応   |                  |
| 4) 食事・栄養に関する援助の方法 | (3) トリアージ         |                  |
| 5) 非経口摂取している患者の看護 | 2) 心肺蘇生法          |                  |
|                   | 3) 止血法            |                  |
|                   | 4) 院内急変時の対応       |                  |

### 【担当からのメッセージ】

看護技術は繰り返し実施することで修得できます。効果的な学習計画を立て練習してください。

## 授業の進め方

### 【講義、演習】

演習では、グループになり、看護者役、患者役、観察者を体験し、それぞれの立場に立ってどのような技術提供が必要であるかを考える。またリフレクションを行い、知識・技術の向上を図る。

## 教科書

系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ（医学書院）

看護技術プラクティス（学研）

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔12〕皮膚（医学書院）

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔7〕脳・神経（医学書院）

## 参考図書

配布資料 必要時参考図書の紹介

## 評価方法

出席状況・課題提出状況・演習取り組み状況：20点

終講時客観式テスト：80点（試験時間は時間数に含む。）